

# 大雪山の素顔

## 野生動物に会いたい気持ち

地元・関西から東川町に移り住んで約2年。引越して以来、旭岳の麓で働き続けています。

帰りが夜になる事もありますが、その際の楽しみが野生動物に出会える事。暗い夜道で明るく光る眼を探してしまいます。

季節にもよりますが、よく会えるのはキタキツネ、エゾシカ、タヌキ。まれにエゾユキウサギ、シマリス、エゾリス、ヤチネズミなど。通勤中に(車上から)ヒグマに遭遇したというスタッフもいてうらやましい限りです。

### ～個人的に会いたい野生動物のランキング～

1位:フクロウ 2位:エゾモンガ 3位:ヒグマ

以前はナキウサギが1位でしたが、最近念願叶って会う事ができました。ヒグマは、夏に知床で会えたのですが大雪山ではまだ会えていません。車上などの安全地帯からは非一度会ってみたいものです。

ランキング以外でも野生動物に常々会いたいと思っていますが、会いたいと思うほど会えない法則が働いているように感じます。そこで、初心者の私が勝手に考える、野生動物に会うための方法について書かせていただきます。

1. 会える条件を調べて、条件に見合った時に探しに行く(天候、時間、場所など)
2. 会いたいと思いつ過ぎない
3. 引きの強い人と一緒に行く



Nature Column (ネイチャーコラム)  
自然ガイドなどで活躍する人たちをリレーしています。

1は当然の事ではありますが、その動物の生態について調べ、出没する場所、行動の傾向を把握する事が大切だと思います。



2は、先にも書いた通り、会いたいと思いつ過ぎると会えない法則が働きます。気持ちのコントロールは中々難しいですが、執着を捨てる事が野生動物との出会いに繋がるはずです。

3は、何度もその動物を見た事がある人に同行してもらおうと思います。そういう人は野生動物への執着もない上に出没場所もよくわかっていらつしやり、何度も見ているが故に、見つけ方のコツも自然に身に付けていて、野生動物の気配を感じる事に長けています。

会いたい野生動物ランキング3位まで記載しましたが、4位・5位にオコジョやオジロワシも控えており、まだまだ野生動物を見つめる旅は終わりそうにありません。

※野生動物にさわったり、エサをあげてはいけません※

旭岳ビジターセンター 土井啓子



## ラトビアの「名前の日」

東川町国際交流員(CIR) アルタ・ボイツェホプスカ



ラトビアには、誕生日と似たお祝いがあります。それは「名前の日」です。ラトビアのカレンダーには、2月29日を除いて、毎日1〜5つの名前が書いてあります。ラトビア人は、自分の名前が書いてある日に名前の日を祝います。二つ名前を持つ人は、両方の名前の日を祝います。花の意味を持つ名前は主に春と夏の時期に多いです。

December			
12	Arta Orliga	13	Lilija Valters
14	Aurelija Galante	19	Lelde Samita
20	Arta Mijonca	21	Saukerte Tomass Toms
26	Daniela Ozka Magda	27	Emara Helarska Ineta
28	Inga Ingberga Iveta Ineta		

この伝統は、中世に始まりました。当初、キリスト教・カトリック教会のカレンダーには数人の聖人の名前しか書かれていませんでした。18世紀にラトビアの最初のカレンダーが印刷され、それがラトビアで名前の日のお祝いの伝統が始まったきっかけです。最初のカレンダーには200の名前がありましたが、現在のカレンダーには約950の名前が書いてあります。親が子どもに新しい&ユニークな名前を思い付くので、カレンダーには3年に一度、約15の新しい名前が追加

されるのです。ラトビア人はどのように名前の日を祝うと思いますか?たとえば、私の名前の日は12月20日ですが、この日には家族や友人から「おめでとう」「幸せになるように」など多くのメッセージや電話がきます。普通、自分の名前の日に誰かを家に招待することはしません。来訪する親しい人は、到着する少し前に行くことを知らせ、花か小さなプレゼントかケーキを贈ります。誕生日との違いは、名前の日のケーキには口ウソクがないことです。